

# AZAPA株式会社

## 「ツナグ」かで、 クルマの新しい価値と未来を創造

### PROFILE

- ◆本社所在地：名古屋市中区丸の内2-14-20
- ◆設立：2008年7月
- ◆代表取締役社長&CEO：近藤 康弘
- ◆資本金：6,500万円
- ◆従業員：70名（国内グループ含む）※博士号保有者約1割
- ◆事業内容：自動車バ「ワルトン制御等のEPA」開発、  
走行ログ、次世代通信システム開発、R&D
- ◆電話：052-221-7350
- ◆http://www.azapa.co.jp

AZAPA(株)は、自動車のエンジン制御理論をコア技術とするベンチャー企業。同社の事業は、自動車、通信、コミュニティー、エネルギーの4つの主軸で構成され、パワートレイン制御等のモデルベースの開発等を行う「オートモーティブ事業」を核に、通信技術や、情報を共有するソーシャル技術、低炭素社会を可能とする環境技術を総合的に関連づけ、クルマの新しい価値の創造を目指し、事業を展開している。

### 【自動車業界における新しい立ち位置「ティア0.5」】



一般的に、巨大なピラミッド構造といわれる自動車業界では、自動車メーカーを頂点に、自動車部品を供給するティア1（1次サプライヤー）、その下にティア1へ部品を供給するティア2と呼ばれるサプライヤーが続く。このピラミッドの中で、同社は、「ティア0.5」という戦略を進める。

「ティア0.5」戦略とは、課題を解決したい自動車メーカーと、サプライヤーとの間に入って、技術課題の発見と分析をし、解決策を具体的に提案（開発）する事業戦略。技術を持ちながら自動車業界に参入できずにいるメーカーやベンダーとのコーディネーター役としての機能も果たす。例えば、ステレオカメラを開発し、10年前からティア1に働きかけて自動車参入を目指すも、実現できなかったある大手企業に対し、同社は「シミュレーション補正」という考えをプラス。自動車の安全技術に応用する道筋をつけた。同様の機能開発をしている企業は他にもあるが、同社の優位性は、実装した上で走行試験までしていることにある。

その獨創性、プロジェクトのスピード感は、世界と戦う複数の自動車メーカーに評価され、最も身近なパートナーとして多くの共同研究を任せられるまで成長している。

### 【飛躍のポイント】

自動車メーカーや大手サプライヤーとパートナーシップを結べるベンチャー企業として成功した要因の1つは、消費者が本当に求めるクルマの価値を提供するため「考える→カタチにする→ツナゲル→価値をつくる」という行動理念を愚直に実行してきたことにある。



### 社名の由来:企業理念を象徴

社名の「AZAPA」は、異なる品種との交配によってのみ結実するオリーブの希少種の品種に由来。「高い技術と豊かな創造力」、「AZAPAのビジネスコアとお客様」をつなげ、新しいビジネスを創造するというのが込められている。

会社のロゴは、平和の象徴とされるオリーブの葉。

その原動力となっているのが、何より、発想力と行動力を併せ持ったチャレンジ精神。人材育成のため、博士号の取得費用を助成する「Dr.チャレンジ制度」や、新たなプロジェクトの構想を練るための「アイデア創出休暇」などを設け、本社ならではの方法で、社員のチャレンジ精神の育成と、キャリアアップを応援している。

### 【今後の展望】

現在進めているプロジェクトの1つが、「考えるクルマ」。街、ドライバー、クルマが協調し、状況に応じた走行を提供する。具体的にはセンシングによるドライバーの生体情報、カメラによるクルマの周辺状況、走行データなどからリアルタイムに収集したビッグデータを分析。ドライバーの特性（ペルソナ）を導き、仮に「危険なドライバー」と分析された場合は、クルマを制御し「時速30キロ以上出せないようにする」などの対応を可能にする。

同社では、人と情報、クルマ、あらゆるものがツナがり、次世代情報システム社会が構築されていくことを予測する。そして、こうした近未来に向け、強みである自動車制御のコア技術に、センシングやECU開発などの技術を加え、「人とツナガル」新しいクルマを提案し、同時に『人とクルマの調和』を実現させることを目指している。

